こんな先生いるよ！

「統計データと現場の声を融合させ『経営を科学的に』解明する」

経営学部　経営学科　講師
岩澤佳太（いわさわけいた）先生

工場の「原価計算」を学術研究の対象にするとは実際にどんなことだろう。

岩澤佳太先生の専門は経営学の中でも管理会計、原価計算、コストマネジメントなどと呼ばれる分野で、主に統計分析を使って効果や影響を分析している。例えば、どのような原価計算を行うと、企業のコスト構造や利用者の意思決定にどのような影響があるか、うまく原価計算を活用している企業とそうではない企業にはどのような違いがあるか、などを解明している。

２０２２年度の日本原価計算研究学会賞を受賞したのは「工場経理部門のサービスが製造部門のコストマネジメントにおよぼす影響」という論文である。ものづくりにおいて原価計算はとても重要なものだが、現場には会計に詳しい人が少ないのが実情だという。品質の良いものを作る、納期を守るといった点ではプライドを持って働く人たちも、コストを適正水準に抑えることは二の次となってしまうことも多い。

「私の研究でわかってきたことの一つに、ものづくりにおいて工場経理部門の役割がとても大きいということでした。実際には活用されにくい原価情報を、いかにうまく現場に落とし込み、一緒になって問題解決に取り組むか、原価を分析して改善提案ができるかなどが重要で、これが工場の生産パフォーマンスに大きな影響を与えていることを解明したのが本論文です」と話す。

このような研究を行うためには企業内で収集したデータが必要である。そして協力企業から機密性の高いデータを提供してもらうには深い信頼関係が必要となる。

「私は大学院時代からたくさんの企業に伺って調査させていただきながら、良い関係性を構築してきました。現在も協力企業の問題意識に響くような調査設計を心がけ、その成果として社内データの提供をいただけていると思っています。また原価計算や管理会計の解明は統計などの定量的データによるのが基本ですが、現場に足を運ぶことでわかる生の声や目で見た情報など定性的データを組み合わせることも重要だと思っています」と話す。

大学３年生になるまで将来研究者になるとは考えていなかったが、ゼミに入ったことで大きな変化が起きた。

「ゼミの指導教授がいつも楽しそうに研究しているのを見て、憧れを持つようになり、大学院に進学して研究者への道を決めたのです」とこの道に進むきっかけを話してくれた。

「近年の就職環境では文系でも入社時点で専門が絞られるジョブ型の採用が増えています。私の研究で解明したように、原価管理や管理会計の実務では、簿記や経営理論などの文系的知識に加えて、統計やプログラミング・情報システムなどの理系的分析能力も求められますが、その両方を持つ学生は非常に少ないです。本学の経営学部は『経営を科学する』のスローガンのもと文理融合的教育をしており、これからの時代に企業で活躍するチャンスは非常に大きいと思います。実際に私のゼミの学生たちを企業へ調査に連れて行くと、とても珍しがられます」と話してくれた。

太田正人（ジェイクリエイト）

賞状
岩澤 佳太 殿
貴殿は工場経理部門のサービスが製造部門のコストマネジメントにおよぼす影響 の論文は日本原価計算研究学会賞審査委員会において二〇二二年度学会賞に選定されました よってこれを賞します
二〇二二年九月一七日
日本原価計算研究学会
会長 挽文子

[写真左] ゼミ生が誕生日をサプライズで祝ってくれた記念に（前列右から４人目）**[写真中]** 趣味のゴルフで富士山に向かってティーショット **[写真右]** 2022年度日本原価計算研究学会賞の賞状